

私の検査室の維持管理 ～工夫と特徴～

e-learning および e-mail  
を活用したISO15189の維持

東京大学医学部附属病院 検査部・輸血部・感染制御部

# 東大病院の臨床検査部門とISO15189

検査部 生理検査  
検体検査

全認定数 **75** 施設

病院 **40** 施設 (大学病院 **23**)

感染制御部

ISO15189認定範囲

日本適合性認定協会

輸血部 検体検査  
血液管理・  
供給業務

I&A認定範囲

日本輸血・細胞治療学会

全認定数 **84** 施設

病理部

病院 **84** 施設 (大学病院 **22**)

## ≪ 5.1.5 教育訓練 ≫ の活用

次の教育訓練をすべての要員に提供する。

- a) 品質マネジメントシステム
- b) 割り当てられた業務プロセスおよび手順
- c) …

効果は「教育訓練実施基準」に基づき、定期的にレビュー

### < 活用例 >

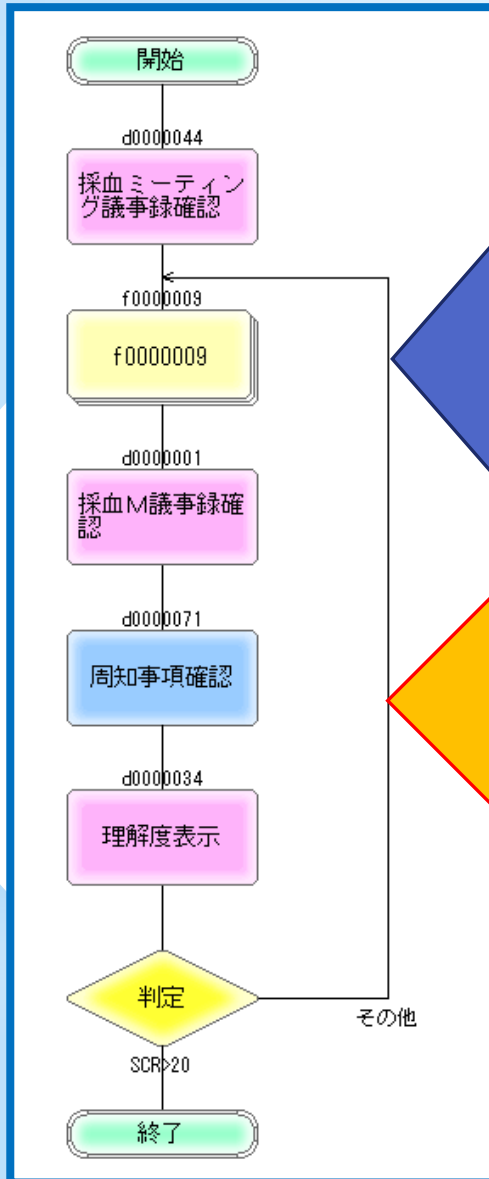
ISO15189;2012版へ更新のための研修会

採血委員会の報告内容や採血手順に関する注意事項

⇒e-learningで確認および教育記録の作成

# 議事録の確認

## 採血委員会議事録確認



Interactive Study

5) 採血システムの追加・修正 (別紙参照 1-5)

- ・当院で初めての採血患者および採血間隔が6ヶ月以上の患者について、患者の体調やアレルギーなどを確認するポップアップ画面を表示。(VVR発症の約50%が採血初心者)
- ・採血状況を登録できる画面に12/16から更新
  - ⇒VVRを含む患者の体調不良、凝固、溶血による再呼出採血、痛み・痺れの患者相談、止血不足による衣類汚しなどのトラブルは改善できていない。トラブルの原因究明およびトラブル削減を目的とする。
  - ⇒患者対応に記載しない痛みなどや凝固・溶血確認しない場合でもゆっくり採血した場合などもできるだけ登録をお願いします。採血終了後でも登録可能であること、受付票目録に登録内容を記載して責任者に報告すること。

Interactive Study

### 議事録確認の設問

**確認**

12月18日の採血ミーティングで、周知された事項について、正しいものは“○”，誤っているものは“×”を選択して下さい。

1. 各部署での検体到着情報が採血システムに転送されようになったが、従来通り、搬送投入口でバーコードを読ませてから検体を検査室へ持っていく。
2. 搬送ラインに検体を載せる時は、必ずしっかりセットする。浮いていると床下搬送の出口で引っかかり搬送が止まり、検体が抜けて紛失や破損になる。
3. 採血台端末の画面が変更になり、患者がVVRや気分不良になった情報を登録できるようになった。
4. 採血台端末の画面が変更になり、患者が採血中に痛みなどを訴えた場合は、痛みを起こした場所などを登録できるようになった。
5. 紫キャップロング管の採血量 5mlで検査項目がACTHの場合は、必ず5ml採血する。

# まとめ

ISO15189認定は、大変な労力が必要

3部門(多くの検査室)が関わる業務は、

- 教育・研修(業務手順の統一)
- 連絡体制 (周知体制)
- 要員の配置(機動性)

ISO要求事項を活用して  
業務改善やe-learningを用いた教育研修で  
採血業務に関する品質目標を達成！